

稲作だより

第 11 号
登熟後期
編

平成21年9月1日発行
新・米づくりやまがた日本一運動
最上総合支庁農業技術普及課
Tel 29-1325 (稲作担当)

はえぬきの登熟は、平年よりやや遅れています！

適正な刈取判定を行いましょう！！

生育診断ほの登熟状況は、中晩生以降の品種でやや遅れています。これは、出穂期前後の日照不足や出穂後の気温が低めに推移しているためと考えられます。
今後は、出穂後30日を目処に落水作業に移行しましょう。
今年は穂揃いの悪いほ場が見られるため、早刈りには特に注意しましょう。

表 生育診断ほの登熟状況（8月31日現在）

地帯・品種	出穂期	登熟歩合 (%)	平年差 (%)
平坦 ・ はえぬき	8/9	18.9	-14.1
中山間・あきたこまち	8/3	50.4	+9.8
山間 ・ あきたこまち	8/5	41.5	(+8.9)

※ 山間のあきたこまちは、前年差

○積算気温による刈取適期(9月1日現在)

区分	品種名	出穂期	出穂後積算気温 (°C)					青刈歩合 (%)
			950	1000	1050	1100	1150	
平坦	ヒメノモチ	7月31日	9/11	←.....→			9/16	20
	あきたこまち	8月2日	9/14	←.....→			9/21	15
	ひとめぼれ	8月6日	9/19	←.....→			9/27	15
	はえぬき	8月7日	9/20	←.....→			10/5	20
	直播はえぬき	8月14日	9/30	←.....→			10/18	20
	コシヒカリ	8月15日	10/5	←.....→			10/20	15
中山間	里のゆき	8月3日	9/17	←.....→			9/23	20
	ヒメノモチ	8月3日	9/17	←.....→			9/23	20
山間	あきたこまち	8月5日	9/20	←.....→			9/29	15
	あきたこまち	8月10日	10/1	←.....→			10/13	15

※平坦は新庄、中山間は向町、山間は折のアメダスデータによる。
なお、8/31までは本年実測値、以降は平年値を使用。

- 今後の気象経過により、適期は変動しますので注意してください。
- 籾数が多い場合や水口の遅れなど揃いが悪い場合は、1,000°C以降に刈り取ります。

◎収穫は適期を逃さずに

早刈りは高水分籾による乾燥効率の低下や青未熟粒の混入、刈り遅れは着色粒、胴割れ粒、光沢低下などにより品質が低下します。

刈取り時期は出穂後の積算平均気温を目安に、登熟の状況など右の3つのポイントをみて総合的に判断しましょう！

<刈り始めのポイント>

1. 青籾歩合が 15～20%
2. 枝梗の黄化程度
3. 籾水分 25%以下



◎張り込みは速やかに！乾燥はゆっくりと

○刈取り時に水分の高い生籾を放置するとヤケ米や変色米の原因となります。

速やかに、乾燥機に張り込みましょう。

○高温での急激な乾燥は、胴割れ粒を発生させ、食味も低下させます。

○送風温度は外気温+15℃までとし、乾燥速度は籾水分20%以上で、毎時乾減率0.8%程度、20%未満では0.6%程度を目安とします。また、青籾混入の多い場合は、籾水分18%程度で乾燥を一次休止する二段乾燥を励行しましょう。

○余熱乾燥や、水分の戻りに注意し、水分15%に仕上げましょう。

◎肌ずれ米に注意！

○籾は十分に放冷し、籾摺り時の肌ずれ防止に努めましょう。

○必ずためし摺りを行い、ロール間隙を調節します。

※品種によって粒の大きさが異なります！

○食味と品質の向上のため、選別はLL網(1.9mm)で行いましょう。

水分チェックは
工程ごとに！！

①生籾

⇒②乾燥途中

⇒③乾燥終了直前

⇒④籾摺り直前

★農作業事故ゼロ運動の強化期間です！

◎農作業安全の基本は、適正な保守点検から！

◎コンタミ防止対策上からも、コンバイン、乾燥機などの点検整備を徹底しよう！

◎機械の点検・調整はエンジンを止めましょう！

◎手刈り稲の脱穀は巻き込まれに注意しましょう！

山形県農業情報サイト（あぐりん）でも様々な稲作情報を公開しています！

⇒

あぐりん

検索

<http://agrin.jp>